

令和5年度地域説明会の概要（令和5年8月21日～25日）

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
1	一中	A	熱塩小学校と加納小学校は、統合しても複式学級であり、長期的に見れば、松山小学校との統合などの考えはないのか。	熱塩加納地区の減少数、意向を踏まえると、まずは熱塩小と加納小を先に統合してはという声が多く、説明会でも同様の意見が出ているため、そのように対応している。
2	一中	B	慶徳小では複式学級が見られるが、今回対象とならなかった理由はあるのか。	第1次実施計画（案）の対象については、児童生徒数の減少状況、複式学級の編制状況、保護者や地域住民の意向、施設の老朽化状況等を総合的に考慮して選定した。 慶徳小については、地域説明会の結果、もう少し議論を深めた方がよいと判断し、今後も検討を継続することになった。
3	一中	C	何をもって適正配置としているのか。統合を必ずしなければならないことを前提として議論しているようである。生徒の数が少なくともデメリットがないのではないかと感じている。 現在は、ＩＴも進んでいるので、必ずしも人数がいなければならないわけではなく、吸収するのは、いろいろな機会があるので可能ではないかと思う。	子どもたちの教育環境を第一に考え、計画（案）を作成した。これからの子どもたちはいろいろな価値観に触れ、深い学びをする時代になってきている。そのためには、ある程度の人数が必要ではないかという考えである。 確かに、現在は遠隔でもできる活動が増えているが、日頃からある程度の人数での環境が子どもたちには必要であると考える。 適正規模適正配置は喜多方市にとっても非常に大きな事業である。また、まちづくりの観点が必要であると考え、皆様からいろいろな意見を伺った中で、教育委員会だけでは対応できないことについてもいろいろなご意見をいただいて対応し、より良い喜多方市づくりのために取り組んでいければと考えている。
4	一中	D	市議会だよりには、小中学校の統廃合に対する陳情というのがあり、早く統合して空いた教室などを町の活性化に生かしたらどうかという意見の陳情に対して、全面反対ということで不採択となった。市議会の意見とこちらの方々の意見のつながりはないのか。	陳情については承知をしている。教育委員会としては、子どもたちのためには何が一番いいかという事を考え、地区の皆様丁寧に説明をさせていただくため説明会を行っているところである。意見があったことについては、市民の皆様や議会に丁寧に説明をさせていただき、ご理解いただけるように努めてまいりたいと考えている。 令和4年度から地域説明会を開催し、保護者、地区の皆様、議会の皆様にも全員協議会でも説明してご理解をいただいて進めている。市としまでもきちんとした考えをもって、説明させていただいておりますので理解をいただければと思っている。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
5	一中	C	慶徳の子どもたちでお田植祭りなどをやってもらっているが、子どもたちが少なくなってやってもらえるか心配。今年あたりからは中学生にも協力いただいた。 子どものことを一番に考えてもらうのはいいが、地域から学校がなくなれば、慶徳そのものがどうなるのかなという住民の考え方がある。中学校も幼稚園もなくなり、今度、小学校もなくなれば、若い人はだれも来なくなる。それが目に見えている感じがするので、小学生が歩いて通える距離で学校がある。生徒は学校でも学ぶけれども、地域の中でも伝統文化などを通して成長する。そういう教育方針で慶徳はやってきたと思う。そういうものがなくなる。過疎化がもっと激しくなるというのはやめてほしい。 基本的に考え方が違うと思うが、そういう気持ちで説明会にきたので、何とかしてほしいという気持ちである。	地域に根付いた各学校がある中、授業の中で、何とか残していけないかという話が出ている。今後の検討課題となる。地域に根付いたもので子どもたちを育てているものはなるべく残していきたいと考えている。実施計画（案）は、子どもたちの教育環境にはある程度の人数が必要であるという形で提案させていただいている。 現在の適正規模適正配置では、今の家から学校に通える体制をとるということで、子どもたちが地域からいなくなるという考えで進めているわけではない。その地区から通っていただいて、その地区に戻っていただく。その中で地域活動が一緒にできるということで、今までも地域の活動はやっていただいていたと思うが、もし、統合が広がれば、また、広がった中での新たな地域活動ができるのではないかと考えている。地域のことも考えながら、子どもたちの一番いい環境を考えている。
6	一中	D	若者がいなくてどの村も困っている。会北が二中になるような動きが広がってくれば、過疎化に拍車をかけるということになると思うので、反対の頑張りを、踏ん張る方に力を入れていただけるとありがたい。 喜多方もこのままだと会津若松市喜多方区になってしまうんじゃないかと心配している。このまま統合が続いていけば一中、二中、一小、二小しかなくなってしまうのではないかと感じている。村も町もなくなり、人も若者もいなくなるのも目に見えているし想像がつく。統合する方に力ではなく、踏ん張る方に力を入れてほしい。5年でも10年でも伸ばす方に力を入れてもらえると住民としてはありがたい。	今回の実施計画（案）は、地域の皆様の意向や保護者の意向を総合的に勘案して第1次計画案としてまとめました。各地域に小学校があることで地域とのつながりがあるというのは重々理解しており、その部分については、尊重しながら進めていこうというのが考え方である。 今回はここに示した適正規模適正配置の考え方であり、無理にこちらか示しているものではなくて、地域の皆さんとのある程度の方向性が見いだせるのではないかとということから示しているものであるので、その中でまちづくり、地域づくりについてもしっかり対応していかなければならないというのが、行政としての考え方でもあり、若松に喜多方市が含まれてしまうということは当然考えてはおらず、喜多方独自のまちづくり、施策を進めてまいる考えでありご理解いただければと思う。
7	二中	E	「複式学級が予想より早く進んでいる」とあったが、その要因は何か。	各家庭の事情による引越し等、様々な要因が考えられる。なお、資料の児童生徒数の推計値は最新の住民基本台帳により作成している。
8	二中	F	この実施計画案の決定はいつ頃か。 審議会の開催後に地域説明会はあるのか。	今後、審議会における答申、総合教育会議や市議会等へ説明などを予定している。策定時期は今年度中を見込んでいる。 実施計画策定後、第1次実施計画の対象となった地区との協議を進めていく予定である。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
9	二中	G	小規模特認校を導入している上三宮小学校に限らないが、保護者の希望した学校に入学できるなら児童生徒数が都度変わると思うが、市はどのように考えているのか。 塩川小学校の児童生徒数が増加している要因は何か。その増加要因を市全体の施策として繋げることはできないのか。 子育て施策については、高校生の医療費無償化など思い切った施策を実施しないとだめだと思う。全国的に人口減少の歯止めはかからないが、一朝一夕の施策ではだめだと考える。	上三宮小学校の新入学生については、募集期間を定めているほか、保護者との面談等を行っている。教育委員会では各学校での新入学生の人数を把握し、受け入れ態勢の準備・整理を行っている。 塩川地区の児童生徒数の増加要因は住宅団地の整備等が考えられる。また塩川地区は会津若松市への通学・通勤の便が良いところも人口増加の要因として考えられる。市では塩川地区以外に大荒井地区での住宅施策や、子育て施策など様々な施策・事業を実施しているが、全体的には増加していないところである。
10	二中	H	上三宮小学校は各地域から応募でき、少しずつ児童数が増えているが、「当面の間、現状維持」の記載に不安が残る。小規模特認校の評価はどのようなものか伺いたい。 上三宮小学校の子どもたちが将来どのような形で卒業を迎えるのか。	小規模特認校の評価については、「学級数、児童数等」、英語教育やＩＣＴ教育などの「特色ある教育活動の推進」、「児童の成長」等からの観点から評価を行っている。 入学した児童が同じ上三宮小学校で卒業できるよう魅力ある学校の実現に取り組んでまいりたい。
11	二中	E	熱塩小・加納小の場所、山都中・高郷中の場所について青写真はあるのか。	学校の場所については、既存の施設を活用する予定である。今後、具体的な場所について地域との協議を行うとともに、施設の老朽面やコスト等を踏まえて総合的に検討していきたい。
12	二中	I	小中一貫校についてはどの程度考えているのか。近隣の会津若松市立河東学園（義務教育学校）について評価は行ったのか。 第二次計画では義務教育学校等について検討の余地はあるのか。	義務教育学校については、同じ敷地に小中学校がないと効果は薄いと考えている。導入に向けた検討を行うにはある程度の時間を要する。 可能性はある。
13	三中	J	基本的に、案には賛成である。明確な指針があれば分かりやすくなる。例えば、市として複式学級をつくらないなどの指針があればよいのではないか。 今年度の複式学級の指導や人的配置の状況が分かれば教えてほしい。 市としての覚悟を示し、保護者に安心感を持たせるために、財政的負担、人員確保等の課題があると思うが、複式学級には市雇用の教員を必ず配置する等の対策があればよいと思う。	１クラス１７名という基準になっている。１６人が複式学級を編制する基準なので、そのことを意識した数字になっている。 複式学級の人的配置については、複式学級がある全部ではないが、午前中の複式形態が解消できるように、教員を配置している。 財政的負担も膨大になるが、他にも教員不足という問題がある。他県にまで、教員も探しているところである。財政面、教員確保の二重の課題があり、その点もご理解いただきたい。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
14	三中	K	小6と小3の子どもがいる。来年度、中学校に進学するが、三中行った方がよいのか、二中行った方がよいのか、小3の子どもがどうするのか、不安な面がある。	小6のお子さんの進学先は三中になる。R7から3年間の猶予期間を設けている。これは、三中に在籍している兄弟姉妹がいる場合、違う中学校に進学するのは可哀そうであるという理由からである。小3のお子さんは、二中への進学になる。
15	三中	J	前回の説明会で、三中学区の小中一貫教育学校の導入について質問したが、その際には、導入を考えていない旨の回答があった。今回は、前回提案されていた山都、高郷の小中一貫教育学校の導入について述べられていない。その経緯をお聞きたい。 今回の説明会等で出された主な意見について聞かせていただきたい。	前回、山都、高郷地区で小中一貫教育学校を提案したが、様々な意見を検討した結果、山都中、高郷中の統合校を山都に設置するという案になった。小中一貫教育学校がより効果を発揮するためには、同一敷地内に小中が設置されることが望ましいとの考えから、山都、高郷地区の小中一貫教育学校の新設は行わない案とした。 各中学校区での意見等について紹介。 なお、今回の議事録については、まとまり次第HPに掲載する予定である。
16	三中	I	R10の三中は、三小、熊倉小、関柴小の三校で構成されるということで確認してよいか。生徒数が合わないと思うがどうか。	その通りである。現在資料に掲載している生徒数、学級数はまだ、計画が決まっていないので、一小から進学する子供の数も含まれている。
17	三中	L	小6と小2に子供がいるが、小2はR10卒業なので、二中去くようになる。小6の子供とばらばらの中学校に通学するようになるが、卒業しているので、それはいいのかなとも思っているが、可能であれば希望して三中を選択することができないか。	検討する。
18	三中	M	一小到小6と小4、小3の3人が通学している。小6は三中で、小4と小3は二中ということになる。お下がりができると思っていたが、2番目からは、二中のものを買わなくてはいけないなども考えている。	経過措置期間について検討する。
19	三中	L	他の人から、少人数でも適応できる子は三中行っても、新しい友達ができいいと聞いたことがある。確かに一小から二中去くと繋がっているが、多くのところに行くと、固まってしまう子もいる。今は、三中学区のことはあるが、学校を選ぶことができるということもいいとは思う。移行期間の設定のことを言ってしまうと、私の家族だけでなく、他の家族も同様にいると思うので、水掛け論になってしまう。学校の選択について考えていただけるのであれば、検討してほしいので言ってみた。（意見）	

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
20	三中	J	前は、三小、熊倉小、熊倉小が統合して関柴小の校舎を使用する計画案が出されたが、次期実施計画の再編案では、この考え方が継承されるのか、白紙になるのかお聞きたい。	昨年度、保護者、地域住民、PTAやコミュニティスクールの方等との意見交換を行ってきた。それらの意見を踏まえた上で今回の案が作成された。次期計画の土台はあるが再度、議論を通して検討していくことになる。
21	三中	I	今回の各説明会の出席者数を教えてほしい。	各地区の状況を回答。
22	会北中	N	熱塩小PTA会長から、子どもの数が減っており、もう少し早く統合できないかという話があった。保護者のそのような意見を尊重して欲しい。（意見）	
23	会北中	O	熱塩小、加納小、すぎっこ子ども園、ひめさゆりこども園の保護者にアンケートを行ったところ、早めに統合して欲しいという意見が多数あった。それらのPTA役員で相談し、熱塩加納に小学校を1つにして欲しいという内容の要望書を教育委員会に提出した。佐原議員に紹介議員になってもらい議会に請願も提出した。 第1次実施計画案に令和7年度から令和10年度までの記載があるが、その優先順位はどのような形で決めたのか。 このタイムスケジュールだと、会北中でなく、会津若松市の中学校に進学する場合も考えられる。第二中学校と会北中学校の統合が、少し先なので、会北中学校に進学と思っている、計画が決まれば、第二中に進学したいという保護者が出てくると考える。そうすると、会北中の教育環境が悪化するのではないか。第二中学校と会北中の統合、熱塩小と加納小の統合スケジュールが一緒だと子どものためになり、個人的には良いと思う。令和6年度からでもよいので、早めに統合してほしい。	第一小学校に分散進学解消については、学びや人間関係の小中の系統性を重視したために計画した。ハード整備の必要がないので、早期に取り組むことができるため、R7の実施計画になっている。 二中と会北中の統合については、前回の説明会においても統合を進めて欲しいという声が小学校より大きかった。また、統合が決まれば二中に早めに通わせたいという意見もあった。 熱塩小と加納小の統合については、校舎について、会北中を使用してはという考え方もあるため中学校を先行することとした。 山都中と高郷中の統合については、高郷中が複式学級が想定されるため、早急な対応が必要ということで計画にあげている。 優先順位は、数字で割り切れるものではなく、複式の編制、意見交換会等により、総合的に判断して決めたものである。 小学校の統合と中学校の統合を一緒のタイミングがよいということについては、保護者からの意見として賜わり検討する。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
24	会北中	P	熱塩小と加納小の統合で、学校をどこにするのか決まっていないとのことだが、会北中を使用する場合、階段には手摺を付ける、プールの問題、熊の対応のため柵の設置等の改修も必要である。できるだけ早く統合をするためにも、会北中を使用する案はなくしてほしい。 一小の分散進学解消と並行し、熱塩小と加納小の統合を進めてほしい。分散進学解消について、令和６年度には特に手間がかかる作業はないと思う。 適正規模適正配置の議論がはじまってもう10年も経っている。もっと、危機感をもってやってもらいたい。	会北中を使用する場合、小学生に合わせた改修が必要となる。早期の統合を考えると、統合小学校の校舎は加納小を考えていきたい。 令和６年度からの統合ということだと、いろいろと作業を急ぐ必要がある。学校の設置は市町村だが、教職員の配置は県となる。学校の統合の場合、通常は、前年の６月に条例を改正することになる。その後、県との協議も必要になってくる。このように、一定の期間が必要になることもご理解いただきたい。
25	会北中	N	出来れば早く令和６年度からでもやって欲しい。親としての危機感や責任感がある。 資料の６ページに小中一貫校も検討とあるがどのようなことか。 熱塩小、加納小が統合し、さらに再統合ということはないか。 審議会委員３年目となる。郡山市の湖南地区においては５つの小中学校が統合し、小中一貫教育学校を開校している。旧喜多方東高校へ熱塩小、加納小、山都小、高郷小をもっていくということもあり得るのか。	統合においては小中一貫校も検討するということである。会津若松市の河東学園は、１年生から９年生の義務教育学校の形態をとっている。昨年度示した計画案においては、山都と高郷でそのような案であったが、今回はない。今後、喜多方地区、塩川地区において考えていくということである。 資料７ページに適正規模適正配置の基準がある。このような状況になれば統合を検討するということである。 小中一貫教育学校は、場所が離れていても可能ではあるが、同一敷地にあって、児童生徒、教員同士の交流ができることが望ましい。ハード面の整備も必要である。小中一貫校が離れていると現実的ではないので、第１次実施計画（案）にはあがっていない。
26	会北中	Q	会北中と二中が統合するなら、最初から二中に通わせたいという保護者がいる。いずれ一緒になるのであれば、住所を移さなくても行けるようにして欲しい。	昨年度２回行った説明会においても、同様な意見があり、需要が多いと感じている。統合が決まると、会北中の生徒数が激減することも考えられる。保護者の意向を把握する機会も設け、今後検討していく。
27	会北中	R	中学校の統合を前倒しした場合、ハード改修は間に合うのか。	二中の校舎に関しては問題ない。スクールバス発着所など改修の必要が出てくることも予想される。
28	会北中	S	小学校は４km、中学校は６km以上でスクールバスがでるという考えでよいか。	今後、保護者の方と具体的に相談する。数字で切るということではなく、冬季間の雪、坂道など地域性も考慮していく。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
29	会北中	Q	保護者アンケートの集計では、小学校の統合場所は加納小でよいのではないかという意見が多かったので、この場で伝えておく。 7年前もこのような会がありいろいろ意見があった。いつまで検討し、結論を出すかが見えないので、二中に行ってしまうような状況も出てくる。いつからということを具体的にしてもらえるとよい。	時間がかかり申し訳ない。現在、このような会議を開き、各地区で意見をもらうようにしている。統合を早めるかどうかの意見を検討し、審議会での議論を経て市で計画を決定していく。その後、地域に働き掛け合意の手続きに入り、保護者や地域住民で統合準備委員会をつくり、校歌、校歌等を決めるなどの作業を進めていく。
30	会北中	T	こんなに統合の話が進んでいて、びっくりしている。学校が廃止となった後の地域の状況、様々見ていると思うので、数字的なところを教えて欲しい。 具体的なところを教えて欲しい	統計的なものはない。学校がなくなると地域が廃れると心配されているが、子どもの減少により統合が必要なことは御理解いただきたい。また、地域振興策で対応していく。 統合により廃止となった校舎の活用事例では、山都二小は介護施設となり、入田付小は活性化センターとして地域住民の利用に供している。
31	会北中	U	資料9ページに「地域の学校との関わりへの配慮」と記載されている。二中与熱塩地区の環境は別物であると思う。統合しても、児童生徒が地域とふれあう時間を作って欲しいと思う。公民館事業などで、子どもと関われるようにして欲しい。	会北中の教育活動の中に、田植えがある。中学校としては、特徴的な取組である。これまで築き上げたものは継続し、地域のアイデンティティーとして受け継がれるようにしていく。学区が広がれば地域も広がる。地域の宝をなくさない仕組みを作っていく。
32	会北中	P	私を含め早く統合して欲しいと思っている人達は、その殆どが統合しないですむならその方がよいと思っているが、人数が少なくなってきたので苦渋の決断としてのものである。 反対の意見の人もいると思うが、そういった思いを分かって欲しい。本当だったら会北中にも通わせたい。 熱塩も高郷も空き家を上手く利用して他地区から人が来てもらえるような、人口が増えるような事業を増やして行って欲しい。地域の人達も、外から来る人を温かく迎えるような地域づくりをして行って欲しいと思う。	地域振興については、様々取組をされている。熱塩であれば支所の隣に花の散歩道など、地域のことは地域の人が作っていくことが大事である。 市は地域の皆様と一緒に考え支援していく。今後もアイデアをいただければと思う。
33	塩川中	V	学校の形態について、「新たな学校を設立する」とあるが、どのような意味か。	吸収統合ではなく、対等での統合を考えている。
34	塩川中	W	「R9 統合に向け調整・準備」「R8 統合に向け調整・準備」（資料P11）とあるが、これは、それぞれR9、R8に「統合」と捉えてよいか。	その通りである。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
35	塩川中	X	各地域ではどのような意見があったか教えて欲しい。	それぞれの地区の意見等を紹介。
36	塩川中	Y	具体的な予算案はあるのか。 新たな学校を整備（新設）する考えはあるのか。その際には補助金はあるのか。 姥堂小学校のプールが使えない。市として屋内プールを整備する予定はないのか。	今後、内容が固まった段階で予算を要求していく。 第1次実施計画では既存の施設を活用する予定。なお、新たに整備する際は国等の補助金を活用したい。 プールの老朽化も課題として捉えている。現在、内部で検討を行っているところである。
37	塩川中	Z	今回の適正規模適正配置は、複式学級の対策として行うという認識で良いか。 中学校における令和17年度以降の推計人数はないのか。その後の見込について伺いたい。 現在はダブルスクールが主流である。複式学校でも、個人的に塾などに通えば学びの環境が確保、高校受験等に対応できるのではないか。 複式学級の解消が目的のようには見ええない。複式学級にもそれなりの効果はあるのではないか。	趣旨としては、子どもたちにとって望ましい学習環境を整えるために実施するものである。 令和17年度までは住民基本台帳を基に推計した人数である。令和17年度以降も減少傾向は続くものと考えられる。 児童生徒数が少ないと、人とのふれあいや様々な考え方に触れる機会などが難しくなる。学校における望ましい環境を考えていきたい。 複式学級が悪いわけではないが、子どもたちにとってより望ましい学習環境を整えることが目的である。
38	塩川中	a	高齢者の参加が多いが、高齢者の意見ではなく、実際の児童生徒からアンケート等は取ったのか。 塩川地区は狭いところで学童保育を行っている。統廃合より前にこちらの対応をお願いしたい。	子どもを対象としたアンケートは行っていない。審議会においても保護者が責任をもって答えを導くものである、との考えのもと進めている。 放課後児童クラブについては、課題と考えており、現在、こども課で対応を行っているところ。
39	塩川中	W	山都・高郷地区でも、保護者は賛成、地域は反対との話を聞く。おそらく他の地域でも同じだと思う。そのような異なった意見を市ではどのように調整していくのか。 ・第1次実施計画はいつ策定するのか。	昨年度から計41回地域での説明会を開催してきた。その結果を受けて第1次実施計画案を示しているところ。今後、審議会での答申を受けて決定していきたい。第1次実施計画の対象となった地域については、今後、PTAや地域の理解を得たうえで進めてまいりたい。 ・今年度内に策定したい。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
40	塩川中	b	教員の減少が問題となっている。統廃合ではなく、オンライン授業にすれば解消できるのではないか。	児童生徒ひとりひとりの表情を見ながら授業を進める対面の形態が大切である。
41	塩川中	c	参加人数が少ないが、周知はどのように行ったのか。 前回の説明会では「たたき台が提示されないため意見を出せない」との声があったと思う。今回の計画で突然「塩川地区」が外されたが、なぜか。 ダブルスクールについては、市民所得も関係していると思うが、本市は所得が低く厳しい。教育水準を上げるまちづくり、魅力ある学校づくりをお願いしたい。	周知文書の各戸配付や防災ラジオ等により周知したが、参加者数が少ないことは課題として捉えなければならない。今後も様々な方法を検討していききたい。 塩川地区においては総合的にまとめ上げるのは時間が必要である。第2次実施計画で検討できればと考えている。 所得の向上、まちづくりを行っていききたい。なお、塩川地区は40年前の土地区画整理事業が実を結んで人口が増えている。まちづくりは時間がかかる。また行政だけでできるものではない。市民が主役として様々な提案をいただきたい。
42	塩川中	d	第2次実施計画の進め方はどのようになるのか。	今後も保護者、地域との話し合いを進めていきたい。
43	塩川中	V	参加者を増やすため、資料を事前配布することで保護者、地域の関心を高めることができるのではないか。（意見）	
44	山都中	e	この話し合いが公開されるのかどうかをお尋ねしたい。 次に、審議会等に話し合いの内容がどのように反映されるのかをお聞きしたい。 また、統合することによって市としてどのような学校をつくっていくのかをお聞きしたい。 計画は白紙撤回で良いのではないか。	議事録が整理でき次第ＨＰに公開する。 審議会の答申案の検討の際に説明会で出された意見を参考にする。 生きる力を育むために、教科の学習だけでなく、グループ学習等の学び合いを通して、一人一人が多くの人に触れ、お互いのよさに気づき、協力し合い、切磋琢磨することで、豊かな人間性、社会性を身に付けていけるような学校にしていきたい。そのために、ある程度の規模が必要であるとする。地理的状況等を考慮し、今回のような案を提案している。 なお、白紙撤回の考えはない。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
45	山都中	f	市の計画では、誰もが住み慣れた地域で、可能な限り継続して生活できる地域づくりと地域コミュニティの重視が提唱されている。また、地域学校協働活動の推進も謳われている。今回の案は、そのような市の方針と矛盾すると考える。地域のとらえ方を変えるということはいつ決まったのか。	今回の統合案で高郷地区を失くすといった意図は全くない。旧5市町村の地域性を生かしながら、発展をさせていくということである。今後も行政の目的等によって、地区ごとの活動を行っていくことになる。 学校は、子供たちを教育する機関である。高郷中はR14には、2学年で7名にまでなってしまう。会津学鳳中学校等への進学や特別支援学校に行く場合は数字に含まれていないので、さらに減少することも考えられる。このような環境で、子どもの未来のためによい教育ができるかというてできないと思う。 地域については、山都、高郷の地区全体で子供たちを支えていくということになる。高郷の文化を山都の子どもが学び、山都の文化を高郷の子どもが学ぶということで、地域の広がりがあったもよいと思う。 市の発展に向けての指針ということで、総合計画を策定した。社会情勢の変化に合わせて、見直しが図られている。教育振興総合計画も市の総合計画に合わせて、見直しを図ったところである。地域づくりについては、計画に基づいて、地域の特色を生かした各種イベント等を行っているところである。市町村合併の後、均衡を図りながら支援を行ってきた。学校に関する事項としては、学校給食費の負担軽減等を実施している。また、学校を支える取組として、遠距離通学費の補助や音楽祭や体育大会の費用の負担も行なっている。それぞれの地区の特色を生かしながらも全市が統一的な発展がなされるようにサポートを行っている。 一番大事なものは、自分たちの地域を自分たちでどのようにしたいのかということが大切だと考える。提案を是非市の方に上げていただきたい。山都町では、まちづくり協議会が発足して現在、様々な議論を行ってもらっている。
46	山都中	g	具体的な子どもの姿が示されていない。「地域性」という言葉が出ているが、山都の地域の中で育ってきた子ども、高郷の地域の中で育ってきた子どもと一緒にしてどのような子どもを育てるのか示してほしい。 新しい学校をより適切なところに設置するということになっているが、山都地区に設置するというのをはぐらかしているような気がする。小さなところに学校を持っていくという逆転の発想がないと、解決しないと思う。統合させられた地区は急速に過疎が進むと考える。高郷と山都を比較して、山都が適切であると考えた根拠は何か。 大きなところに小さいところを吸収するということでないのか。そうすることで、地域の衰退が進むのではないか。	教師が講義をして、知識を子供たちが受けるという授業形態から、次世代を担う子供たちにとっては、主体的、対話的、深い学びを通して、思考力、判断力、表現力を身に付けていくことが重要である。そのために、学習の形態を変えていく必要がある。ある程度の人数がいて、意見を出し合い、認め合い、尊重し合っていくことができる学校をつくっていくことが大切であると考ええる。 学校の場所は、公共施設等でより適切な場所があればということであるが、山都中を中心に考えている。山都地区が人数が多く、通学についても、影響を受ける人数が少ないということを考えた。また、校舎も山都中の方がより新しいということもある。 吸収統合ではなく、対等な立場での統合になる。また、伝統的な行事、活動等は、できるだけ残すことができないか、検討していく。 全市一体的な発展を目指して、様々な取組を行っているところである。また、合併後、各地域間の交流が盛んになり、様々な地域を知る、多様な人々との交流が増えるということも、合併の成果の一つと考える。 学校が地域からなくなるということは寂しいことではあるが、子供がいなくなったわけではなく、通学する学校が山都にあるということである。 学校と地域、子どもと地域の関係については、共に考えてよりよい地域づくりを目指していくということを考えている。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
47	山都中	h	小学校と中学校に子供がいるが、今回具体的な統合の話が出てきたのはよかった。 適正規模適正配置が始まって、会議に出ているが、「学校がなくなって、地域が廃れる、地域から学校をなくすな」などの意見が出される。統合賛成というと思者ようになってしまう。実際に、子供に「友達が増えるかもしれないけど、どう思う」と聞くと、「いいんじゃない」と喜んでいた。 大人から見ると、学校をなくすということは、地域のためにならないと思うかもしれないが、子ども目線で考えていかないと、この問題は進んでいかないと思う。少ない人数、決まったメンバーで学校生活を送った後に、高校に行き、大人数の中に入っていった時にどうなるのか、そこまで考えてあげないと、子供が可哀そうだ。 統合するのであれば、統合のメリットを最大限に生かしてもらいたい。山都中は今年度生徒数が一気に20人減った。それに伴って、PTA活動、保護者の負担が増えている。会費も入ってこなくなったので、予算をどうするかということも出てきている。今後、負担が増え続けるということで、大きな問題だと思う。部活の問題もある。山都中では人数が少ないので、選択するものがほとんどない状態である。やる気のある子は、頑張っているが、やらされている感を持っている子は部活にやる気を失ってしまっている。自分がやりたい部活を少しでも選べるような環境を作ってあげたいと思う。 地域の問題のことを言えば、学校の有無で過疎化が進むという話ではない。市の施策で過疎化が進まないようにすることが大切だと思う。学校がなくなるから過疎化が進むということは、問題が違うと考えるので、市に是非頑張ってもらいたいと思う。	小規模化によってご苦労させているPTAの方々の支援を行っていききたい。また、統合のメリットを最大限に生かせるよう考えていききたい。
48	山都中	i	吸収でなく、対等統合という認識について、具体的には、校名、校歌、校章等がかわるということでもいいのかということを確認したい。 また、令和10年度に統合ということで計画されているが、それまで、どのような準備をしていけばよいのかお聞きしたい。	対等の統合を行う。原則的に両校は閉校ということになる。それには、いろいろな形があるが、例えば喜多方高校、喜多方東高校の場合は両校とも閉校にして、協議した結果、校名が喜多方高校になったという経緯がある。 統合中学校にあっては、校名、校歌、校章を最初から検討していくことになる。何れにしても、PTAの方々にもご協力いただいて、地域の方々の代表等で決めてもらうように考えている。 今回の説明会の意見を踏まえて、審議会で協議答申後に計画を策定し、PTA、地域の方々の合意形成をしていくという流れになる。令和10年度までの開校に向けて、令和9年度に議会の議決をもらうというスケジュールである。それまでには校名等が決まっていなくてはならないので、概ね令和7年度には開校に向け作業に着手していくという大まかなスケジュールである。その際に、地域の方々による委員会を立ち上げていく考えである。また、子供たちの事前の交流活動を行っていききたいとも考えている。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
49	山都中	j	地域づくり協議会を行っており、その中で、将来のことを考えていくことは大切であり、地域としてどのような支援をしていくことができるのを議論している。しかし現実的にはなかなか難しい。単に既存施設の小規模な改修だけでなく、ハード、ソフトを含め、特徴ある魅力ある学校を作ってほしい。一例であるが、例えば デジタル通信の有効活用で他の地域、国とつながるなどの環境整備を行ってほしい。そうしないと、安定した子供たちの数を確保することは難しいと思う。	基本的には、既存施設の有効活用ということを基本にしていきたい。その上で、必要な改修等を行っていく。ソフト面については、地域が広がることにおける教育活動の内容の検討を行っていきたい。将来、行ってみたいと思うハード面については今後考えていききたいと思う。なお、新しい学校の教育目標をつくる際には、教育委員会、校長、PTA、地域の方々の思いや願いを集約する形で、作成していきたいと考えている。
50	山都中	k	適正規模の人数の根拠は何か。 最終的に喜多方地区に持っていかれてしまうと思う。地域から学校がなくなれば、親も住まなくなる。	適正規模の基準は昨年度案として示した。国の標準法では１クラス４０人であり、現在、段階的に小学校は３５人になってきている。また、標準の学校の規模は小学校１２学級以上、中学校１８学級以上となっており、本市でここに該当する小学校は、一小、二小、塩川小だけで、他は小規模の学校ということになる。本市では、審議会の協議を経て、１クラス１７人で、中学校は１学年３クラス、小学校では１学年２クラスでクラス替えのできる学級編制ということで案を作成している。その上で、山都、高郷については、通学の負担等を考慮し、現在の案を作成した。 特に、高郷中は令和１４年度に複式学級の出現が予想され、教員数の減少や学びの環境の整備に対応するため、統合案を提案している。
51	山都中	l	前回、市教委だけでなく、移住対策、就農（有機農業）等総合的に考えていかなければならないので、次の計画はそれらを加味し、市教委の考えだけでなく、いろいろな部署で検討をしてほしい旨を要望しておいたが、今回の案にはその点について疑問を感じる。 データには、特別支援教育の人数は入っていないが、全ての子どもを受け入れ、特別支援教育についても加味する案にするのであれば、市独自でも考えていく必要がある。	人口を誘導してくる移住定住策については、市でも様々な施策を行っている。ただ、その成果がすぐに表れるものでもないので、ご理解いただきたい。 特別支援教育については、資料P9にも特別支援教育の充実に取り組んでいく旨を明記しており十分配慮していきたい。 特別支援の推計人数については、予想することができないため数字には入っていない。特別支援学級の設置については一定の基準があり、統合によって、ある程度設置しやすくなるということもある。
52	山都中	m	今回、小中一貫校でなくなった経緯を知りたい。 高郷小学校で小規模特認校の導入は検討しているのか。	様々な地域等での意見を踏まえ、山都、高郷地区では中学校の統合を行い、小学校については今後検討していくという案にした。 小中一貫教育学校の利点を最大限生かすためには、同じ敷地内に小中があり、教師や子供の交流を行っていくことが望ましいため、小中一貫教育学校の案にはなっていない。 上三宮小学校で小規模特認校を実施しているが、類似の教育活動を重視した学校をつくったり、市に複数の小規模特認校を導入したりするのは難しいということで、導入は検討していない。
53	山都中	f	郷土について学ぶことは重要である。山都に学校があれば、郷土学習のカリキュラムは山都中心になってしまう。高郷の郷土に対する意識はどうなっていくのだろうか心配する。市の計画で「郷土を誇り、自己啓発できる子どもの育成」ということが謳われている。学校の場所は重要である。高郷の小中一貫教育学校を進めてほしい。	現在、行っている伝統や郷土に関する学習をできるだけ、残して実践していくことはできないだろうかということを考えている。また、高郷の文化や歴史を山都の子が学ぶ、山都の文化や歴史を高郷の子が学ぶということで、お互いのよさを認め合い、交流を深めることができるのではないかと考えている。その点を十分に組みこんでいけるよう検討していきたい。 地域学校協働活動の概念は広くとらえられており、市全体で子供たちを育てていきたいと思っている。例えば、高郷や山都の課題について、熊倉地区の方が解決していくなどということを文科省でも考えているようであるので、そのような対応もとっていきたい。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
54	山都中	n	初めて出席した。子育て世代の家はこの時間での出席は厳しいかなと感じている。 今回のことを子どもに聞いてみると、スポ少をやっていることもあるが、「〇〇ちゃんと一緒になるんだ。うれしいな」と素直に喜んでいて。 私自身は、中学校の統合を前向きに考えている。統合の際に同じ年代を持つ高郷地区の保護者の考え方はどうなのか知りたい。	高郷説明会に、保護者は参加が4名であった。 PTA会長は賛成、もう一人も賛成の意見を述べていた。 高郷の中でも、賛成や反対などいろいろあるということは聞いている。 また、統合の規模を大きくしてもいいのではないかという意見もあった。
55	山都中	e	答弁が文科省の文言と同じである。メリット、デメリットは小規模校であれ、大規模校であれ同じようにある。そこから努力、工夫していくことが重要と考える。（意見）	
56	高郷中	f	令和3年の教育振興基本計画中間見直し計画では、地域学校協働活動の推進がうたわれており、今回の案は矛盾すると考える。地域が元気になるようにと頑張っているのに、学校についてだけが、地域を超えるということを言っている。計画倒れになるのではないか。	近年、児童生徒数の減少から、子どもの教育環境整備のために、旧町村を超えた統合も考えざるを得ない。地域学校協働活動、コミュニティスクール等があるが、地域には一定の広がりがある。統合によってできた地域が新たな地域ととらえ、高郷の子が山都の歴史に触れたり、山都の子が高郷の地域に触れたりすることも出てくる。地域の文化の共有ということについて前向きにとらえていただきたい。 地域の問題が出されているが、例えば部活動の問題で地域移行という考えがある。また、女子のソフトボールで言えば、塩川中、田島中、檜枝岐中が一緒になり、チームを作って、好成績をあげている。喜多方市全体で子供たちを育てることができないかと思っている。
57	高郷中	o	上三宮小学校について、なぜ小規模特認校にしたのか。上三宮小と松山小との統合は検討しなかったのか。旧町村をまたいだ統合案を計画するなら、なぜ高郷小、中も小規模特認校として指定できないのか。	上三宮小を小規模特認校としたのは、2年連続入学者が0名で、次年度、1年生と4年生の「飛び複式」学級の編制が予想され、子どもの学び、学校運営上大きな支障が出ることが考えられたので、緊急避難的に制度の導入を図った。令和4年度から、他学区からの児童も入学しており、その子らに配慮し、当分の間継続をする考えである。 上三宮小と松山小の統合はなかったのかという点については、この実施計画案ができる前に緊急避難的に実施したということである。
58	高郷中	p	高郷小・高郷中を小規模特認校にすることはできるか。 会津若松市では大戸小・中、湊小・中が高郷地区と同規模であるので、小中一貫教育学校等の検討をお願いしたい。	小規模特認校については限定的に導入したため、他地区では導入する考えはない。尚、上三宮小学校では小規模特認校についての検証を行い、検証結果によっては統合ということもあり得る。 ご意見としてお聞きしておく。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
59	高郷中	q	小学校が当分の間、高郷地区に残ることにほっとしている。学校は地域の核である。農業科、語り部等で地域の方との触れ合いはあるが、学校行事等でもっと生かしてもらえれば、その役割が浸透していくと思う。例えば、学校と地域の運動会を合同でやるということもよい。学校の運動会は半日で、お昼もないのでおじいちゃんやおばあちゃんも見に来ないという寂しいものになっている。可能であれば、市教委の方からプッシュしてもらいたい。 山都中と高郷中は統合しても28人である。その次の展開はどうなっているか。 中学校で一番学ばなければならないのは、友人関係と思う。高郷中には不登校がいたという話を聞いた。小さいコミュニティの中で不登校がいるということは、逃げ場がなかったり、新たな友人の中に入れなかったりしている窮屈な状況の子もいる。そのようなことから、個人的な意見であるが、喜多方と全部一緒の中学校という考え方はどうか。大きなコミュニティの中で学ぶことが大切であると思う。大人になっても悩むことは人間関係である。中学校段階で、そのようなことを学ぶのは大切である。小さいコミュニティで逃げ場がないというのは、子どもにとって、かわいそうだと思う。 通学手段について、会津坂下町のように、公共交通機関と連携した通学手段を検討してほしい。	まさに、学校と地域が一体となって行事等を取り組むことは大切であると思う。先日の校長会でも、校長には地域に積極的に出向いて行ってほしいということを話した。公民館等が加えれば、さらにより取組ができと思う。 喜多方地区との統合については昨年度の説明会で、山都地区でも、高郷地区でも出されたところであるが、通学距離において、一定の配慮ということで、負担を少なくすることが必要なのではないかとということで、山都中と高郷中の統合案を提案しているところである。 30人程度で今後も推移すると考えられるが、さらに生徒数が減った場合はその時点で考えていくことになる。 高郷中と山都中の統合にあたっては、スクールバスの活用を考えている。さらに、喜多方地区との統合ということになれば、その過程で、公共交通機関の活用等も検討していく。
60	高郷中	e	一人でも通学したいと思う子がいる場合は学校を残してほしい。 今後いろいろな懸念が出てくると思うので、適正規模適正配置の統廃合計画を白紙にしてほしい。その上で、地域に学校がなくなっても構わないということになれば、それは仕方がないことである。 ただし、地域には、自然、文化、歴史があるので、そのような中で育っていった方が、義務教育まではよいと考える。このままでは、喜多方地区と塩川地区にしか学校はなくなってしまう。 学校がなくなった後の地区のあり方についてどのように考えるか。 学校を窮屈にせず、独自性を認めていけばより豊かな教育ができと思う。	現実、子供の数がかなり減少している。子どもが一人になるまで残して欲しいという意見もあったが、そのような状態になるまで、学校を存続することが子供たちにとって本当によいのかは疑問がある。 子供たちは、学校で、教科の学習だけでなく、人間関係や社会性を学んでいく。生きる力を育むということである。そのためには、統合もある程度必要であるとする。 生きる力を育むためには、多様な考えに触れ、その中で自分の考えを深め、切磋琢磨していくことが大切と考える。次世代を担う子供たちを育成するためには、そのような学習を進めていくことが重要である。 統合した場合の地域の発展はどうかという質問であるが、地域にとって必要なのは学校だけではないと思う。一番大切なのは、自分たちの地域をどうしたいのか、そのためにはどのように行動していったらいいのかということである。自治基本条例の中にあるように、まちづくりの主役は市民で、市民の自主的な参画によって行われるものであると考える。 地域振興の方策は市が押し付けるものでもない。市は、地域の声を受け止め、サポートしていくことが重要であると思う。いろいろなアイデアを提案してほしい。

No.	中学校区	発言者	質問・意見	回答
61	高郷中	r	私は70代であるが、親の立場でこのような会議に出ることが必要だと思う。 また、適正配置に関わる子供たちは、果たして人数が少なくてもよいのかということにどのような意見が出てくるのか非常に興味がある。 統合によって、「新たな学校を設立する」ということであるが、具体的にどのような方策があるのかを聞いてみたい。	「新たな学校を設立する」ということについては、一旦両校を廃校にして、校名、校歌、校章等を検討するということである。子供たちへの配慮ということで、統合前に、交流学习を行い、統合のギャップを少なくしていきたい。
62	高郷中	s	地域の住民と保護者の意見が食い違うということが分かった。人間関係がうまくいくかどうかは、統合するかどうかと違うと思う。 地域のことは一体だれが考えていくのか。 荻野駅周辺に子育て支援住宅が作られなかったのはなぜか。	統合によってすべての人間関係がうまくいくかということについては必ずしもそうではない。それは学校の大小には関係がないと思う。統合により多くの人間と触れ合い、社会性が広がっていくということは言える。 市では、少子化支援対策ということで、山都、高郷では住宅等の建設は行われていないが、他の支援策として、山都地区では遠隔地の診療の実証実験に取り組んだりしている。高郷地区では乗り合いのデマンド交通であるが、AI化して利便性を高めるなどの実証実験をしている。様々な取組をしているが、なかなか人口減少に歯止めがかからないが地区の方々と一緒に考えていきたい。 部署が異なるが、以前、建設の計画を検討した経過はあった。
63	高郷中	t	児童生徒数だけでなく、地域振興等についての考えもお聞きたい。	繰り返しになるが、個別の計画は持っていないが、市全体としての計画し、様々な事業を行っている。個別の事案については、一歩踏み込んだ計画が必要になってくる。子育て住宅になると、子供が卒業していなくなってしまうと、定着にはつながらないということもあるので、どうすれば、地元で定着してもらえるか、皆様と一緒に考えていきたい。
64	高郷中	u	小1とこども園年中の子どもを持っている。年中は現在3名在園している。（男子2名、女子1名）先ほどから、「地域」ということを盛んに話題になっているが、実際子どもたちがどうしたいかということだと思う。 家で「学校で何やっていた」と聞くと、「同じことの繰り返しだ」、「だれと遊んだ」と言っても「同じ人としか遊べない」という答えが返ってくる。最近は、「つまらない」ということを言っている。 地域は地域の人たちが盛り上げてもらえばいいと思う。 中学校になると部活が始まる。自分も部活をやっていたが、部活は楽しかったし、いい思い出になっている。統合は流れに任せるしかないと思う。（意見）	
65	高郷中	k	市の方の考えを変えてもらわないと困る。統合ありきで考えてもらっては困る。 以前、塩川中でいじめの問題が大きくなった事例も聞いている。学校を大きくすること、統合することがよいとは思わない。 高郷に統合中学校をつくるならば賛成する。（意見）	